

「想いをかたちに!!」 ボランティア・市民活動の今とこれからを考える

# ボランティア OSAKA

VOL.64  
2011 SPRING



## 特集

## 被災地へ、そして大阪で、 広がる災害ボランティア活動

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。

大阪でも、多くの市民や企業、団体が  
さまざまな支援活動に取り組んでいます。

ボランティアバスで現地に駆けつける人もいれば、  
募金活動や支援物資を送る活動を進める人たちも。  
それぞれが、それぞれの形で  
被災者支援に取り組んでいます。

### P. 2 被災地支援「ボランティアバス」で、 宮城県石巻市へ。

「少しでも力になりたい」という思いを胸に



### P. 6 大阪の高校生、気仙沼へ。 かけがえのない「何か」を掴んだ4日間

### P. 5 大阪府市町村ボランティア連絡会Vサイン 「災害復興支援フリーマーケット」を開催



### P. 7 障がい者が置き去りにされないために NPO法人 ゆめ風基金

### P. 8 ボランティア・市民活動保険 Q & A

# 被災地支援「ボランティアバス」で、 宮城県石巻市へ。

「少しでも力になりたい」という思いを胸に

大阪府社会福祉協議会では、4月25日～29日の5日間、被災地を支援する「ボランティアバス」を運行しました。参加したのは府内各地からの40人の皆さん。年齢も

職業もさまざまの方たちが「少しでも被災者の役に立ちたい」との思いを胸に、石巻でボランティア活動に取り組みました。

「東北への恩返し」「神戸で助けられたお礼に」と、  
参加動機はさまざま

「ボランティアバス」に参加したのは19歳～67歳までの40人(男性24人、女性16人)。一般的なサラリーマンや学生だけでなく、看護師、消防士、美容師、さらに僧侶や元自衛官など実に多彩な顔ぶれで、その参加動機もさまざまです。

「福島に住んでいた兄が大阪まで避難する道中で多くの人に助けられたので、そのお礼のつもりで」と語るのは上田敦さん。一方、「自分を育ててくれた東北への恩返しがしたくて」と参加した青森出身の看護師・甘利志賀子さん。未だ行方不明の友人がおられるそうです。

「元気が出た」という被災者の言葉に、泥かき作業の疲れもどこかへ

バスは翌朝9時、石巻市八幡町に設けられた、災害ボランティアセンターの「サテライト」の一つに到着。石巻市社会福祉協議会が運営する石巻市災害ボランティアセンターでは、市内各所に小規模なボランティア活動の拠点を設置しており、NPOやNGOが運営を担当。センターとともに、こうした「サテライト」でもボランティアの受け入れを行っているのです。



バケツリレーのように一列に並んで不用な雑木やがれきをみんなで運び出します

今回は「ボランティアバス」の運行が新聞で紹介されたこともあり、募集開始直後に定員に達し、キャンセル待ちが出るほどに。あらためて、市民のボランティア熱の高まりが感じられます。

「何か役立ちたい」「少しでも力になれれば」という、そんな皆さんの熱い思いを乗せて、ボランティアバスは4月25日夜、中央区谷町の大阪府社協前を出発しました。



さあ、これから被災者のお宅へ。  
石巻での活動の始まりです。



Yさん宅のあまりの被害の大きさに涙ぐむボランティアさんも



力を合わせて汚泥を外に排出



サテライトでスタッフの話を聞く参加者

一行は現地スタッフから活動内容や注意事項を聞いた後、8班に分かれて徒步で活動先へ。安全に作業ができるよう、木コリや泥よけ用のマスクと「ゴーグル」を顔につけ、長靴に手袋というスタイルで準備は万全。今回は津波被害を受けた個人宅での財道具の片づけ、汚泥やがれきの除去作業が主な活動です。津波に流され土台だけが残った家々、住宅に突っ込んだままの船や自動車。折れ曲がった信号機、倒れた電柱…。震災から1ヶ月半が経過していても、町中でこんな風景が広がっています。この地域は未だ電気・ガス・水道も復旧していません。道路のあちこちに陥没や冠水が見られ、そんな中を歩くボランティアは、目の当たりにする光景に言葉を忘れたかのように、みんな押し黙つたまま。サテライトで渡された地図を頼りに活動先のお宅を探して歩きますが、目印になるはずの建物が流されていました。家の表札がわからなくなっているため、活動先を見つけ出すのも一苦労です。ある班は、庭の汚泥の除去を依頼されたMさん宅にようやく到着。樹木や庭石の間に積み重なった泥やがれきを手でていねいにかき出し、土のう袋に詰めては外まで運び出す作業を黙々と繰り返していきます。午後からは他の2班も作業に合流。庭は徐々にきれいになつていきました。その様子をじっと見ていたM

さん。「家の中が津波で滅茶苦茶になつて、実は見るのもつらくて片づける気になれなかつたんです。でも皆さんの熱心な働きはホットとひと息。慣れない作業はホツとひと息。慣れない作業の疲れも、どこかに吹き飛んでしまつたようです。

**積もつた泥の中から、母子手帳をみつけ出す**

70代のYさん宅でも泥だし作業が続いています。津波が押し寄せ1階部分が水没し、その中を潜つて外に出て、2階まで泳いで難を逃れたというYさん。室内は押入れや本箱の中まで泥がびっしり詰つっていました。食器や本などの家財道具を外に運び出し、泥やがれきをかき出していくますが、あまりの惨状にみんな言葉をありません。

同じような高齢のご夫婦が暮らすFさん宅では、居間に掛けられた日めくりカレンダーが、震災の起つた3月1日のまま。それに気づいた中学校教諭の永井敬さんは、「ご夫婦にとつてはのかもしません。日めくりを毎日めくる。そんな当たり前のこと日々が早く戻ってきてほしいと願わざにはおれません」

一方、Kさん宅では玄関前に積もつた泥の中から、母子手帳をみつけ出し、とても喜ばれました。その様子をじっと見ていていたM

### ペットの発見に、思わず歓声と拍手が

そして翌日。この日も班に分かれての活動です。店舗も住居も津波で大きな被害を受けたS理容所。少し落ち

した。「でも、笑顔のなかにも、大切なものが泥まみれになつてしまつたという悲しみも伝わって…。つらい毎日を過ごしておられるごとに胸が痛みました」と、母子手帳を手渡した佐藤裕美さん。どの班も、泥やがれきを取り除く力仕事の連続。一輪車やシャベルを使うのは初めてという人も多く、汚泥の重さに悪戦苦闘しながらの作業が続きます。そんなボランティアのひたむき姿に、依頼者の皆さん、「元気づけられた」、「本当にありがたい」と、お礼を言ってくださいます。けれども、きれいでできるのは、どのお宅でもほんの一部。圧倒的にボランティアの数が不足しているとみんな痛感していました。

夕方4時、活動を終えてバスで宿舎へ。車中では「初日で意気込みすぎて、後半は息切れ気味になつてしまつた」と反省する声も。班ごとに、休憩や食事時間を取りながら作業をしましたが、食事は各自が持参したパンと水だけという人がほとんど。明日以降、ベース配分に気をつけながら活動することが確認されました。



バスに貼られたボランティアの皆さんからのメッセージ



泥で真っ黒になった床をきれいに



庭の汚泥を手でかき出します

### ●ボランティアバスの合同運行

第1回	4月19~23日	大阪市社協運行
第2回	4月25~29日	大阪府社協運行
第3回	5月10~14日	堺市社協運行
支援先	宮城県石巻市	

着いてくると「髪を切つてほしい」というご近所からの依頼があり、店の再開をあきらめかけていたSさん。夫婦ですが、「長年、店に通つてくれたお礼にボランティアで散髪」することを思い立ちました。奇跡的に鏡と洗髪台が破損せずに残ったことも、Sさんの決心を後押ししたようです。

そんなご夫婦の思いを知ったボランティアたちは、精力的に店内のがれきを除去し、傷んだ天井部分も修理。洗髪台を天井戸水で洗うなどの作業を手伝いました。翌日、ボラン

ティアが再び訪ねると、「昨日、以前から頼まれていたお客様の散髪をしたら、それは喜んでくれました。これも皆さんおかげです」と奥さん。さらに、「今日もみんなが来てくれると思うと、朝起きたのも何だか張り合いが出でね。いつ終わるかわからない片づけを父ちゃんとふたりだけでやるのは辛いもんだから」とも話されます。最終日は他の班も加わり片づけましたが、やり残したことでも多く、心残りな結果になってしまいました。にもかかわらず、帰り際、奥さんは涙ぐみながら、何度もお礼を言ってくださいました。

また、こんなこともあります。Fさん宅でボランティアが泥だし作業をしているときです。Fさんが突然、「あっ、生きてた！ 生きていた！」と声をあげました。見ると1匹のハムスターが押入れの物陰から顔を出していたのです。それは「マック」と名づけられたFさんの女の子さんが可愛がっていたペットでした。どこを探してもみつからず、あきらめていたというFさん。「早く避難所に帰つて子どもに見せてやりたい。マックを見たらどんなに喜ぶことか」と声を弾めます。震災から48日。「よく今まで生き延びた！」「すごい生命力！」と、自然と拍手が沸き起こります。なかには感激のあまり思わず涙ぐむ人もいて、予期しないうれしいできごととなりました。

### 四十九日の法要を実現 2日間の懸命の作業で

震災で50人もの檀家の方が亡くなり、寺も大きな被害を受けたのが渕町にある松巣寺。

四十九日の法要を何とか寺で行いたい」と、境内の片づけの依頼があり、2つの班が合同で活動にあたりました。けれど、

四十九日にあたる4月28日までは2日しかありません。「はたして自分たちにできるか不安だった」と岡野和行さん。それでも、みんなで力を合わせた結果、法要は無事に行われ、住職をはじめ寺の皆さんから何度もお礼を言つていただきました。

「初対面の人間同士でも、役に立ちたいとの思いから一致協力して懸命に活動する。普段の生活では得がたい経験で、私も自然と力が湧いてきました」と岡野さん。それは多くのボランティアが感じたことでもありました。「若い人がこれほど懸命に働くとは、驚きです。今どきの若者は…と批判するのはやめにしようと思いましたよ」と最年長の吉岡眞吾さん。そして、消防士の私でさえ、みんなの働きぶりには脱帽した」と話すのは片岡創さん。「だれかのために、ここまでできる！ 復興はきっと早い」とまで感じたそ



大半の人がボランティアは初体験。元気で3日間の活動を終えました

を出してほしい」、「またボランティアに来ます」、「石巻が早く元気を取り戻し、遊びに行ける町になってほしい」と、さまざまなお意見が出されました。

短い期間だったにもかかわらず、多くのことを体験し、考え、悩んだボランティアの皆さん。大阪へ帰つたら、より多くの人にこの体験を伝えて、支援の輪を広げていきた」という声に、みんなが大きくうなづいていました。

現地での3日間の活動をすべて終え、一路、大阪へ帰るバスのなかでは、「息の長い支援が必須」、「もっとボランティアバス



## 「災害復興支援フリーマーケット」を開催

◆岸和田市ボランティア連絡会・岸和田市社会福祉協議会



「義援金にして」と値札の金額よりも多く支払う人もありました。

「何か私にもできることはないですか」と、震災直後から岸和田市社会福祉協議会には問い合わせが殺到。そんな人たちの想いをカタチにしようと、社協とボランティア連絡会の共催によるフリーマーケットを開催し、その売上金を義援金として被災地に送ることにしました。

「みんな被害の大きさに心を痛めていたのでとても協力的。普段、交流の少ないグループ同士も連携しあって出展品を集めてくれました」と、ボランティア連絡会長の川口朋子さん。手づくりの手芸小物や木工細工などを作っているグループには作品を展出してもらい、それ以外のグループは各自、自宅にある贈答品などを持ち寄ったりして、準備が進められました。

4月16日（土）、会場となつた岸和田市立福祉総合センターには、開場前から50～60人の市民が並ぶという盛況ぶり。ボランティア連絡会の14グループをはじめ、高校や大学、福祉施設、企業など34団体が出展するフリーマーケットとなり、約400人の入場者でにぎわいました。

「品物を買うことが即、被災地の支援につながると思うと、つい多めに買ってしまった」という人もいて、両手いっぱいに買物をしている人が多く見られます。

また、会場前では、自主防災組織の星ヶ丘防災対策委員会による、豚汁の炊き出しが行われ、

連絡会長の川口朋子さん。手づくりの手芸小物や木工細工などを作っているグループには作品を展出してもらい、それ以外のグループは各自、自宅にある贈答品などを持ち寄ったりして、準備が進められました。

4月16日（土）、会場となつた岸和田市立福祉総合センターには、開場前から50～60人の市民が並ぶという盛況ぶり。ボランティア連絡会の14グループを

はじめ、高校や大学、福祉施設、企業など34団体が出展するフリーマーケットとなり、約400人の入場者でにぎわいました。

「品物を買うことが即、被災地の支援につながると思うと、つい多めに買ってしまった」という

人もいて、両手いっぱいに買物をしている人が多く見られます。

また、会場前では、自主防災組織の星ヶ丘防災対策委員会による、豚汁の炊き出しが行われ、

この日のフリーマーケットの売り上げ額は667,000円。義援金として岸和田地区共同募金会を通じて中央共同募金会に送られました。

「社協の呼びかけに多くの人が応えて実現した今回の取り組み、災害時のボランティア活動のありかたを考える良いきっかけになりました」と、ボランティアサロン実行委員の稻富信子さんは話します。

この東北地方太平洋沖地震被災者救援募金にご協力をお願いします。この募金は、日本赤十字社を通じて、東北地方太平洋沖地震の被災者を支援するための資金です。市民の皆様のご協力をお待ちしています。

第75回ボランティアサロンを同時開催。より多くの人にボランティア活動を知つてもらう目的で年6回行われている同サロンですが、今回は、気仙沼市災害ボランティアセンターのスタッフとして活動した社協職員の現地報告をはじめ、ボランティアグループによる樂器演奏や和泉高校ダンス部のダンスなどが披露されました。



### 困ったときの 社協ボラセン

**Q** 震災の被災地支援ボランティアに行きたいと考えています。ボランティア保険にはどうすれば加入できますか？また現地で加入できるのですか？

- A** ◆余震も続いているので、天災担保付のボランティア保険にご加入ください。（本誌裏表紙・Cプラン参照）  
◆加入手続きはお住まいの市町村ボランティアセンターでできます（7P下段参照）。手続きを済ませて出発すると、自宅から活動場所までの往復途上も補償対象になります。  
◆現地でも加入できますが、現地災害ボランティアセンターの負担になりますので、なるべく加入してから出かけください。  
◆必ず県・市区町村災害ボランティアセンターのホームページ等で、現地の受け入れ状況（県外ボランティア募集の有無・範囲等）や服装・持ち物などを確認してから出発してください。また、現地で活動までしばらくお待ちいただく場合もあります。



被災者支援バザーの物品の提供を皆さんに呼びかけ、日用生活用品を中心下着等の衣類や家電製品などが集まりました。東大阪市では、親戚を頼る

森下順子・V連会長は、「今日は、V連会員（約700人）や社協関係者を中心に物品提供を呼びかけましたが、さらに10月頃に開催予定の『ふれあい広場』に向けて、9月頃から市政なり等で市民にも呼びかけていい」と話しています。

### ◆東大阪市ボランティア連絡会 被災者支援の募金とバザーを実施

東大阪市ボランティア連絡会（以下、V連）では3月14～16日に街頭募金を行い、251万66円を日本赤十字社を通じて被災者へ届けました。さらにボランティアとしてできる活動を検討して、社協と共に被災者支援バザーと共にすることになりました。

などで約15世帯が4月4日から

徐々に入居を始めておられます。

そうした方たちに生活に必要な

物品を提供し、残りを「ふれあ

い祭り（5月8日開催）で「被

災者支援バザー」で販売し、売

上金を被災者のために活用する

# 大阪の高校生、気仙沼へ。

かけがえのない「何か」を掴んだ4日間

「がんばろう！つばさネットワーク」

できたての「たこ焼き」を  
避難所の皆さんに

ゴールデンウイークの5月2

日から5日にかけて、茨木市の  
府立・北摂つばさ高校（山崎睦也  
校長）の皆さんが気仙沼でボラン  
ティア活動に取り組みました。

同校では震災後、生徒から「自  
分たちも何かしなければ」とい  
う声があがっていましたといいます。  
そこで藤井伸二先生を中心には、  
同校教員・PTA有志、普段か  
ら授業に協力している地元のN  
POや人権団体で「がんばろう！  
つばさネットワーク」を結成し、  
今回のプログラムは企画されま  
した。

活動場所を気仙沼にしたのは、

藤井先生が社会人入学している  
大阪市大大学院関係者の家族の  
被災がきっかけです。院の修了

生に気仙沼出身者（坂口一美さ  
ん）がいて、彼女は行方不明の  
家族の捜索をかねて、大阪での  
仕事をやめ、気仙沼でボランティ  
ア活動を開始しました。ご家族

避難所となっている中学校で  
鯉のぼり揚げに協力



さすが大阪の若者。たこ焼きづくりはお手のもの？



さすが大阪の若者。たこ焼きづくりはお手のもの？

被災地の高校生とも交流

現地2日目となる翌4日（水）

は、市内2ヶ所の公園を清掃。  
海岸線から5km離れた公園です  
が、地面は黒いヘドロに覆われ

ていました。それをシャベルで  
除去していくと、グランドは見  
違えるほどきれいに。眼に見え

た成果に「きてよかったです！」と  
いう活動の満足感が広がります。

「正直に言うと、私にとって今  
回の震災は『遠い出来事』でした。  
現地に入つても、自分の無力さ  
を感じるばかり。でも公園で私  
の腕を強く握り締め、『遠いとこ  
ろからありがとうございます』というおば  
あさんの言葉に、思わず泣きそ  
うになりました。一生忘れませ  
ん」と1年生の谷口小春さん。

その後は、地元・気仙沼高  
校へ。大阪で集めた義援金  
15万5,845円を渡し、同校  
の生徒たちと交流。一緒にかけつ



気仙沼高校の生徒たちとも笑顔で交流



出発に先立ち、2回にわたり募金活動

こをしたり、恋愛談義に花を咲  
かせたりなど、若者同士がホン  
ネで交流。帰阪後は、早くもメー  
ル交換をする生徒もいて「今回  
を機会に、学校間の交流が深ま  
れば」と藤井先生。

坂口さんたち、受け入れ側の  
お世話になりながらも、誰に強  
制されることなく自主的に参加  
した今回のボランティア活動。  
帰阪後の感想は、みんな一様に  
「参加してよかったです！」。つばさ  
高校の生徒たちは、かけがえの  
ない「何か」を掴んだようです。

# 障がい者が置き去りにされないために ～ニーズを掘り起こし、支援につなげる

NPO法人 ゆめ風基金



仙台市の自立生活センター「CILたすけっと」の皆さん。震災後、ゆめ風基金の支援を受けて、ここを事務局に「被災地障がい者センターみやざ」が設立されました。

災害のたびに指摘される「災害弱者へのサポート」の重要性。今回の東日本大震災も例外でなく、多くの障がい者が充分な支援を受けられず、なかには孤立を余儀なくされている方々もいらっしゃいます。

そんななか、「災害弱者」を支援しようと、いちはやく動き出したのが「ゆめ風基金」。16年前の阪神淡路大震災をきっかけに、被災して不自由な生活を余儀なくされる障がい者を支援するため、95年に大阪で発足。以来、全国にネットワークを築いて募金活動を続け、2億円を超える基金を集め、新潟中越沖地震やハ

イチ地震などで障がい者支援の活動を開いてきました。

今回の東日本大震災では仙台にネットワークの拠点があったこともあり、いちはやく「被災地障がい者センターみやざ」を立ち上げ、被害を受けた障がい者施設への支援、また、潜在的な障がい者個人のニーズを掘り起こし支援につなげる…等の活動に精力的に取り組んでいます。

「4月に仙台を見て回りましたが、障がい者への安否確認もまだまだ進んでいませんでした。なかには命をつなぐ支援を必要としている方もいらっしゃるわけですから、被災地障がい者センターみや

ざでは、メンバーが手分けして県内を回り、障がい者がけっして置き去りにされないため、さまざまなニーズの発掘に取り組んでいるところです」と事務局長の橋高千秋さん。障がい者に向けたチラシをつくり、それを避難所に掲示したり、新聞の折り込みチラシとして配布し、すでに200件を越える問合せを受けて、支援につなげたケースも少なくありません。

新たな募金活動も開始し、2ヶ月で集まった1億1000万円を越える基金で、宮城につづき福島、岩手にも支援センターを開設。現地の被災地障がい者への具体的な支援活動に取り組んでいます。

「日々変化する現地のニーズを的確に把握し、必要なときに、必要な人に、必要な支援を届けるため、これからも活動を進めていきます」と橋高さん。ゆめ風基金のさらなる活躍が期待されます。

(連絡先 TEL 06-6324-7702)



ゆめ風基金のみなさん。右が橋高千秋事務局長。

## 大阪府内のボランティアセンター一覧

大阪府ボランティア・市民活動センター T542-0065 大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内 TEL:06-6762-9631 FAX:06-6762-9679

市町村名	所 在 地	電 話	FAX	市町村名	所 在 地	電 話	FAX
北 摂							
池田市	563-0025 池田市城南3-1-40 池田市保健福祉総合センター1階	072-753-8858	072-753-3444	河内長野市	586-0041 河内長野市大師町26-1	0721-65-0133	0721-65-0143
茨木市	567-0888 茨木市福祉前4-7-55 茨木市福祉文化会館4階	072-627-0086	072-627-0086	太子町	583-0891 太子町大字春日963-1 総合福祉センター内	0721-98-1311	0721-98-2111
島本町	618-0022 島本町桜井3-4-1 ふれあいセンター内	075-962-5417	075-962-6325	千早赤阪村	585-0041 千早赤阪村大字水分195-1 保健センター内2階	0721-72-0294	0721-70-2037
吹田市	564-0072 吹田市出口町19-2 吹田市立総合福祉会館内	06-6339-1210	06-6339-1202	富田林市	584-0037 富田林市宮甲田町9-9 富田林市総合福祉会館内	0721-25-8200	0721-25-8230
摂津市	566-8555 摂津市三島1-1-1 摂津市役所西別館1階	06-6318-1128	06-6383-9102	羽曳野市	583-8588 羽曳野市菅原町4-1-1 羽曳野市立総合福祉センター内	072-958-2315	072-958-3853
高槻市	569-0804 高槻市船屋町3-1-303 グリーンプラザ3号館3階	072-683-2200	072-683-2209	東大阪市	577-0054 東大阪市高井田元町1-2-13 東大阪市立総合福祉センター内	06-6789-5550	06-6789-2924
豊中市	560-0023 豊中市中岡上の町2-1-15 豊中すこやかプラザ内	06-6848-1000	06-6848-1005	藤井寺市	583-0035 藤井寺市北岡1-2-8 ふれあいセンター内	072-938-8220	072-938-8221
豊能町	563-0101 豊能町吉川187 町立保健福祉総合施設豊悠プラザ内	072-738-5370	072-738-0524	松原市	580-0043 松原市阿保1-1-1 松原市役所東別館内	072-339-0741	072-335-0294
能勢町	563-0341 能勢町宿野114	072-734-0770	072-734-2623	八尾市	581-0018 八尾市青山町4-4-18 サポートやお内	072-925-1045	072-925-1161
箕面市	562-0036 箕面市船場西1-11-35 箕面市総合保健福祉センター一分館	072-749-1535	072-727-3590	泉州			
河 北							
交野市	576-0034 交野市天野が原町5-5-1 交野市立保健福祉総合センター内	072-894-3737	072-894-3737	泉大津市	595-0026 泉大津市東雲町9-15 泉大津市立総合福祉センター内	0725-23-1393	0725-23-1394
門真市	571-0064 門真市御堂町14-1 門真市保健福祉センター内	06-6902-6453	06-6904-1456	和泉市	594-0041 和泉市いき野5-1-7 和泉中央南側歩行者テキアムモール1階	0725-57-0294	0725-57-3294
四條畷市	575-0043 四條畷市北出町3-1	072-878-1210	072-878-6888	泉佐野市	598-0007 泉佐野市上町1-2-9 泉佐野市立福祉センター内	072-464-2259	072-462-5400
大東市	574-0037 大東市新町13-13 大東市立総合福祉センター内	072-874-1082	072-874-1828	貝塚市	597-0072 貝塚市當中1-18-8 保健・福祉合同庁舎内	072-439-0294	072-439-0035
寝屋川市	572-8533 寝屋川市池田西町28-22 寝屋川市立総合センター内	072-838-0400	072-838-0166	岸和田市	598-0076 岸和田市野田町1-5-5 岸和田市立総合福祉センター内	072-430-3366	072-430-3367
枚方市	573-1191 枚方市新町2-1-35 枚方市立総合福祉会館ラボルひらかた内	072-841-0181	072-841-0182	熊取町	599-0451 熊取町野田1-1-8 熊取ふれあいセンター内	072-452-6001	072-452-2658
守口市	570-0083 守口市京阪通2-13-1 さつきホールもりぐち内	06-6992-2715	06-6993-0134	泉南市	590-0521 泉南市梅井1-8-47 泉南市総合福祉センター内	072-483-0294	072-483-0353
河 南				高石市	592-0011 高石市加茂4-1-1 市役所庁舎別館1階	072-265-7600	072-261-9375
大阪狭山市	589-0021 大阪狭山市今熊1-85 大阪狭山市福祉センター内	072-367-6601	072-366-7407	田尻町	598-0091 田尻町嘉祥寺883-1	072-466-5015	072-466-8841
柏原市	582-0018 柏原市大県4-15-35 健康福祉センター内	072-972-6760	072-972-6761	忠岡町	595-0812 忠岡町忠岡中2-16-25	0725-31-1666	0725-31-3555
河南町	585-0014 河南町大学白木1371 河南町保健福祉センター内	0721-93-6299	0721-93-5299	阪南市	599-0201 阪南市尾崎町35-1 阪南市役所内	072-472-3333	072-471-7900
河 南				岬町	599-0303 岬町深日3-28-24	072-492-5700	072-492-5701

参考 大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア情報センター TEL : 06-6765-4041 / 堺市社会福祉協議会 ボランティア情報センター TEL : 072-232-5420

